

A

有線放送電話についてはJ A雲南が事業主体ですので、聞き及んでいる内容のみ申し上げますと、近々加入者に説明が行われ、来年3月末で廃止されるということです。その後の宅内配線・電話機・スピーカー撤去についてはJ Aのほうで決定されますが、廃棄物等の関係もあり一気にとなると大変ですので、J Aで端末機械を集めて処分されることと思います。電柱、ケーブル線についてはJ Aが撤去されます。(政策企画部)

木次町温泉地区

Q 2 3 3 [木次町有線放送設備の撤去について]

現在設置されている有線放送の撤去の問題について、総代会で撤去の考え方を聞いたら、組合長よりJ Aで撤去するのは厳しく市に対応してもらいたいと言われた。努力はするが、それが無理なら組合員に負担をとということであった。負担をしるとなると問題であり、ぜひ行政のほうで対応をお願いしたい。

A

J Aの撤去について、J Aからは現段階では負担について行政で助成をお願いしたいという申し出がありますが、事務的な交渉中の段階です。正式に助成をお願いしたいと文書が出たわけではありません。合併前の旧木次町時代からこれまで、行政放送の7割をお世話になった経過もあり、費用負担について協議中です。加入者にはこれまで以上の負担は難しいと思います。年内、年明けに向けてそういう話をしていくこととなります。(政策企画部)

木次町三新塔地区

Q 2 3 4 [高速大容量インターネット通信環境について]

雲南市は光通信が遅れていて、相互通信ができない。雲南市としてどういう考えか。NTTと話がすすんで進んでいるならそれを説明してほしい。個人ではいらぬが、事業所は通信するのに大きい容量が必要なので、事業所だけでも整備してほしい。産業の振興のためになる。

A

光ケーブルについてですが、現在雲南市内全域にケーブルテレビが整備され、一部ハイブリット方式となっております。奥出雲町はF T T H方式で双方向が有効なものです。もし雲南市が全市各家庭に光ケーブルを設置するとなると70億ほどかかります。総務大臣は光を推進していますが、経費がかかるため、当分は雲南市では計画はありません。ドコモ、中国電力、山陰合同銀行が合同でやっていますが一部地域のみとなっております。将来的には必要かと思えます。(政策企画部)

Q 2 3 5 [インターネット回線について]

光ケーブル回線について、ヤフーは木次地区は開通していると思うがどうか。

A

ケーブルテレビの回線を全線光にということは本来そうあるべきだと思います。木次・三刀屋・加茂はKKMとして早くスタートしすぎて、当時はハイブリッドが主流でしたが、そのあと奥出雲町は光を取り入れられました。ハードではなく、ソフトでカバーするときに必ずくると期待していますので、様子を見たいと思います。(市長)

15. [教育・学習]

吉田町吉田地区

Q 2 3 6 [校庭の芝生化について]

教育長さんに伺いたい。吉田町吉田地区の事業にもあるが、太陽光発電施設の整備もいいが、現在、学校環境の整備ということから地域の皆さんに協力をいただき草取りボランティアを実施してもらっている。これがかなり大変な作業で、校庭を芝生化した方が負担軽減や子ども達にとってもいいのではないかと思う。最近テレビでも観たが鳥取方式がいいのかもしれない。地域の人にも校庭を開放して活用しても

らうことも必要であり、芝生化は可能かどうか伺いたい。

A

吉田町においては、小、中学校の児童、生徒も少なくなる中で環境整備を含めて地域の皆様に温かく育ててもらっておりお礼を申し上げたい。ご指摘のあった芝生化については市長もその取り組みの方向性を示している。今後の実施については、これ以上先生の負担を増やすわけにもいかないので、地域の皆さん、保護者、児童、生徒の皆さんを交えて体制が整ったところから芝生化にしていければと考えている。

具体的には簡易で、活着が早い鳥取方式ですすめたらと考えており、幼児期への環境配慮からまず幼稚園で実施し、その後、小、中学校を対象としてすすめていきたい。(教育長)

吉田町田井地区

Q 2 3 7 [学校適正規模適正配置について]

学校適正規模委員会の関係だが、新聞報道でも5年後までには民谷分校、塩田小については統合という方針がでていいる。実際に吉田小1年生の今年の入学児童はなく、田井小も4、5人で親子運動会もこれまで3組であったのが今年は2組であった。だんだん少子化が避けられない状況になっている。

吉田中学校も将来的には30人、40人規模になるが、部活動が選べないということで、現在の野球部、バレーボール部も卓球部になることを聞き悲しい気持ちが出ている。将来的にみれば掛合町との統合となると思うが、田井地区の生徒については山に登っていくことになり、出来れば川下へ行きたいという気持ちもあるのではないだろうか。

今後、統合して大きな学校へ行かせて、生徒数の多い中で部活動を含めて楽しい学校生活を過ごさせてやりたいという親、地域の思いもあり、市の考え方を伺いたい。

A

学校の適正規模適正配置については、2年間これまで検討委員会で検討をしてきたが21年度の春に策定をした今後の計画の中では、小学校については基本的に複式学級の解消を今後10年間で実施していこうとする方針とし、最初の5年間は塩田小学校、民谷分校の15人以下の学校を統合しようということで、塩田小学校は来年度に統合を計画している。また、民谷分校については、実は先般土曜日に地元でお話をいをして24年度の統合でいこうということになったところである。

市内には小学校はたくさんあるが、複式を解消していこうとするとまだまだたくさんある。例えば吉田小と田井小を比べると吉田小32人、田井小29人であるが、23年度からは田井小が32人で、吉田小が26人となり、その後の3年間は田井小が多い状況となる。

吉田小については、民谷分校と統合しても2人しか増えないので、4人は田井小が多いということになる。これらの複式を10年間で解消する方向でこれから保護者、地域の皆さんと方法を含めて協議をしていきたい。

一方、吉田中についても59人いるが、3年後には36人となりおっしゃるように部活動(野球、バレーボールが)が出来なくなる状態となる。

今、中学校は市内に7つあるが、基本的に旧6町村単位でいろいろなことをすすめてきているので、基本的にはこれからも旧町村単位の設置がベストと言うことになる。ただし吉田中では極端に生徒数が減るので、掛合と一緒にいいのか、木次・三刀屋と一緒にいいのかということも想定しなければならない。

中学校については1学年が2学級以上を目標としている。なぜかという、中学校の教科は9つあるが、その先生を準備するためには2クラスないといけない(国の基準)。2クラスで3学年6クラスということになるが、それを実施するためには、例えば吉田、掛合、三刀屋を一緒にしないとできないということなる。部活動については基本的に中学校単位で実施をしているが、やり方として社会教育の一環ということもあるので、2つの学校で1つの部活動を一緒にやるという方法もあるかもしれないので、そういったことを含めて今後検討をしていきたい。中学校については、特に海潮中、吉田中がそのような状況なので今後5年間で前向きに検討をしていきたい。(教育委員会)

中学校については、旧町村ごとに残そうという考え方ではあるが、今後、先行きを考えた場合に、本当にそれでいいのかということもあるので、従って中学校の統合についても有りうることで、子ども達の教育のことを考えた場合の視点も重要である。

ただし、学校はそれ以外に地域の施設、地域づくりのシンボルでもあるので、その部分をどうしていくのかということにもなり、地域とよく話し合って方向性を出していく必要がある。また、部活動については学校のあり方よりももっと前から、隣接の中学校と一緒にあった複合編成の野球、バスケットなどということもあるし、総合型スポーツといったスタイルを部活に導入するといったことも視野に入れる必要もあるのではないかと。

今後、地域の皆さん、保護者の皆さんと意見を交わし、知恵、工夫を凝らしながら部活動ができないといったことがないようにしていかなければならない。(市長)

Q238 [田井小学校の統合について]

田井小学校でも新聞報道では5年先に統合ということが言われているが、実際にそういうことがあった場合どうなるのかお聞かせいただきたい。

A

先ほど説明をしたように塩田小、民谷分校はここ1、2年で統合ということになるが吉田小、田井小についての計画は、平成22年度から27年度はこのままで、あとの5年間で統合を計画することになるが、子ども達の数は減っていくので、27年度までのところで協議が整えば、統合をしていこうということにしている。

その際、田井小と吉田小の子ども達の数は拮抗していることもあるが、基本的な考え方としては、小学校は旧町村単位で統合していこうということである。(教育委員会)

Q239 [市内学校改修計画の内容について]

現在、大東小学校と三刀屋中学校の改修を実施されているが、この先の統廃合の方向性の中で、吉田、掛合中の統廃合を念頭に現在の三刀屋中学校舎の改修をしているのか。或いは、今までと同じような規模で改修をすすめているのか聞かせていただきたい。

A

大東小について昭和36、37年建築の赤川沿いの校舎であるが、耐震構造上危ないために改築をするものである。また、三刀屋中については昭和33、34年建築であり今回全部新しく建替えるものであるが、今後の統合を目指したものではない。(教育委員会)

掛合町掛合地区

Q240 [掛合小学校のグラウンド整備について]

掛合小学校のグラウンド整備について、昨年夏に請願書、署名を町内の皆さん、後援会、市議、2、539名と子どもたちの作文、保護者の作文を提出したところである。3月議会でその請願は受理された。その後の教育委員会との話しの中で、掛合分校のグラウンドを利用しての整備しか考えられないとの話を聞いている。市長もそのような考え方だと思うが、今後、分校の閉校を待つということは私たちも考えていなくて、4校連携事業も進めているので、考え方を改めて分校との共有グラウンドというか、芝生化の話も出ているが高校生も喜ぶというか、高校も長く存続できるようにという願いを込めて、小学生も喜ぶ共有の素晴らしいグラウンドに整備できないかということをお個人的に思っている。これからの進め方について、市長・教育長の考え方を伺いたい。

A

残念ながら県から明確な回答は得られていない。

平成22年度の宍道高校の開校に伴い、県の何らかの回答が示されるものであろうと思っていたが、平成16年、17年と募集停止ありきということで掛合小学校の建設に取り組んできた。「高校を募集停止してください。」という県への要望活動ではなく、あくまでも「県としてはどちらなのかということをはっきりしてください。」ということをお6月10日、県高校教育課に話をしたが、その結果ははっきりとした回答は得られなかった。

この小学校が開校されてから、掛合では保育所、小学校、中学校、分校の4校連携が、地域の皆さんを含めて非常に良い掛合ならではの教育ができているということで、私どもとしても非常に望ましいものと思っている。

そういった意味で、今回県の方へも、まだはっきりとした表明ができないのであれば、それを切り離し

て共存・共有できることを考えたいと申し上げた。それと先日、三刀屋高校の方へ伺い、ぜひとも共有して、良い形でお互いにメリットがあるような整理の仕方を模索していきたいという旨を伝え、今、県の高校教育課の方へもそのような形で投げてある。いずれ回答があらうかと思っている。私どもとしましては、もうこれ以上待てないという気持ちを持っているので、共有という形でより良い整理の形で協議を進めながら、今年度中にはきちっとした方向性を出すことを目指して、来年度に向けての予算の確保にもって行きたいと教育委員会としては考えている。(教育長)

市としましては、高校がこれから存続されるということであるのなら、高校と共有して両方が利用しやすいようにする考え方なので、またいろいろなご意見を頂戴しながら進めるようにして参りたい。(市長)

[追加意見]

子どもたちは2期生が卒業して3年目に入っても何も変わっていないという残念なことなので、早急な方法を示していただきたいと思う。

掛合町多根地区

Q241 [掛合小学校の校庭について]

4月の自治会長会で市長に掛合小学校校庭の状況について質問したところ、県に問い合わせるという回答をいただいた。あれから2ヶ月経過したが、その後どうなっているか。

A

掛合小学校の校庭については、平成15年、16年と県が掛合分校の募集停止ありきという形で話が進んできており、私共もそれが避けて通れないという判断をしてきており、実際に平成17年に県の方からもそういう要請があってからは、私共としてもいつ募集停止が出るのかということで、合併以来ずっとやってきた。

その間、平成20年に新しい掛合小学校が開校したわけだが、地元の皆さん、地域の皆さんには大変ご迷惑をかけてきた。平成22年に宍道高校が開校してからも募集停止についての明確な言及はされていないのが現状である。

6月10日に県の高校教育課へ直接2つの質問を持って出向き、募集停止があるのかどうなのか、態度をはっきりしていただきたいということと、その回答の状況によっては、募集停止の如何に関わらず、市としては是非とも校庭を共有しながら整備したい旨の話し合いをした。結果として私共はあの当時、県の示す統廃合基準は定員の5分の3(63名)を満たさなくなった時とされていた。現在の生徒数は67名だが、当時は63名を切らなくても募集停止をしていくという強い姿勢があったことから、遅くとも平成20年には回答が出ると予測していた。それから22年に宍道高校が開校ということで、さらに私共は22年度に開校されれば、この7月ぐらいにはもうはっきりと出るだろうということでそういう思いもあって高校教育課へ行った訳だが、実際にははっきりとした回答が得られなかったというのが事実で、私共としてはもうこれ以上待てないということで、現在、保育所、小学校、中学校、高校と地域の皆さんと一体となって4者の非常にいい連携事業がなされており、今後掛合ならではの特色ある教育を進めていくためにも、共有ということでお互いの学校にとってメリットがあるような、整理の仕方を進めていきたいということを県の方にもその旨を伝えた。

それから6月24日に、三刀屋高校へ出向き、直接校長とも話し合いをして、県教委との話し合いの内容を伝え、ぜひとも私共としては共有という形で整備をしたいということをお願いに行った。今後県や高校側の回答待ちだが、教育委員会としては、一定の方向性を今年度中に必ず出し、予算計上して来年度には整備を図りたいと考えている。(教育長)

[再質問]

小学校自体の校庭は作らないということか。

A

今のところ小学校単独の校庭は作る考えはない。後ろの山を削ってはどうかということもあったが、これは平成17年11月9日に掛合町コミュニティ協議会連絡会会議の藤原会長さん名で要望書等も出ており、どういう学校を作っていくのかという協議を行った。実際に決まってから建設委員会をしながら話

し合いもして、その中で色々要望があった。例えば木造でお願いしたいとか、木造が全てだめならば木をふんだんに使った格好にして欲しいとか、平屋建てでお願いしたいということがあった。確かに私共、建設にあたって、2階、3階建の校舎を造れば、100メートルの直線はなかなか取れないが、ぎりぎりグラウンドはとれた。しかし、近い将来に、分校が募集停止されると一体的な形で環境整備ができるということで、今の高校の土手を全て削って250メートルのトラックをとって、100メートルの直線を取れるグラウンドにするということを第2期の工事で行うという一つの構想の基にグラウンドを整備することが当初計画にあり、今、下にもグラウンドがあるが、またさらに裏山を削って単独の校庭を作るとは現在のところ考えていないし、共用して出来るだけ高校側にもそして子どもさんにもよりよいグラウンドをとることを今考えているので、学校単独の校庭は作るということは考えていない。(教育長)

[再々質問]

単独で欲しいという希望をしている保護者もいる。市としては単独での整備はしないということか。それと保育所、小学校、中学校、高校全体の教育でいいものと言うが、体力づくりに関しては問題が違うと思う。一体化という教育はいいものと思うが、体力づくりに対してはやはりグラウンドは小学校にあるべきではないか。

A

先ほど教育長が答弁したとおり、県からは募集停止をいつするかという明確な回答がない状況にある。今後あるかもしれないが、それは待てないので、現在は高校にとっても小学校にとってもなんとか今よりも良くなるという案をこれから作り上げて出来るだけ早く実現したいという考えである。

もともとはあそこに統合小学校を作るという根本の思想としては、いずれ分校がなくなるというのはやむを得ないという考えがあって、あそこに掛合小学校が決められたので、それを踏まえた現実的な対応をしていくというのが一番取るべき道だろうと考えた上でのことなので、言われるような、できるだけ早く、250メートルトラックで、直線100メートルがゆうにとれてということが、即実現できれば、それに越したことはないわけだが、今言うような、またご承知のと通りの経緯があるので、それを一步尊重する必然性もある。従って今言うような考え方でできるだけ早く、これだったらなんとか頑張っていけるという姿を早く実現したいと思っているのでご理解いただきたい。(市長)

掛合町松笠地区

Q242 [特別支援教育について]

特別支援学級の充実を図るため雲南市への高等部の設置をお願いしたい。昭和60年頃から行われている教育というのは、自分が出世さえすればよいという考えに重点が置かれており、こうした学歴偏重の教育は間違っているとされる大学の先生もおられ、現に平成19年には学校教育法の一部が改正されている。雲南市の特別支援学級の児童・生徒がそれぞれ32名・12名くらいいたと思うが、専門の先生が個々に対応をしていかないといけない。現在、養護学校高等部は雲南市近辺では出雲と松江にしかない。中学校までは特別支援学級に通っていても高校生になれば遠方に通う、もしくは断念せざるを得ない状況であると思う。このような状況では子どもの才能が伸ばしきれないと思うので、三刀屋高校か大東高校にこのような学級を作っていただきたい。

A

特別な支援の必要な児童・生徒にも特別支援学級だけでなく、普通学級の中でも特別支援の教育の充実を図っていくことも必要である。雲南市においても着実に特別支援の充実を図ってきた。平成21年には特別支援の専門家である指導主事を1名配置した。22年度には1名増員したことに加え、生徒指導の面からも1名配置して現在3名の専門職員がいる。また、特別支援を一人一人に対応していくため、現在32名の支援員を配置している。教職員の人事、特に管理職の専門職経験者の充実を図るべく要望を行っており、更に小学校就学前における支援についても充実を図っているところである。

義務教育終了後の特別支援学校の高等部についての質問だが、市長も必要性は認識しており、島根県市長会の中でも高等部の開設、通学に対する支援について要望し続けている。また、島根県教育委員会へも直接出掛けて要望している。ただ、高等部の開設については既存の高等学校へ設置しなければならぬわけだが、三刀屋高校・掛合分校・大東高校それぞれ空き教室がないといけない。また、他校の高校生や地元との交流、自立して登下校ができる環境、企業などと連携して作業などができる場所の確保など条件も

多い。だが、引き続き県へ強く要望し続けていきたいと考えている。(教育長)

三刀屋町飯石地区

Q 2 4 3 [学校配布物について]

以前、飯石小学校から出されている「くもみ」と「平和教育」の2つの配布物がほとんど同じことが書いてあった。同じ様なものを発行する時間があるなら、教員は校庭の草取りでもすればいい。

A

学校から出すお便りは保護者だけでなく、地域のみなさんにも知っていただきたいとの思いで作成する大事なものです。内容が重複することは避けたいといけません、学校長や先生方の方針や、子供の様子など地域の方に知っていただくための良い機会です。(教育長)

現在子供の数も減り、飯石地区約240軒のうち、保護者は30軒程度しかおられない。学校としては地域に情報を発信しようと一生懸命されている。私も楽しみにしている。ぜひ読んでほしい。また、草取りについて、学校の先生も人数も減り、大変な思いをしておられる。地域でお助け隊を編成して樹木の剪定や草刈りを協力してもらっている。甘えているわけではないが、保護者も先生も一生懸命でやっているの、ご理解いただきたい。(飯石小学校教育後援会)

Q 2 4 4 [平和教育について]

小学校で平和教育をしておられるが、公立学校なのに永井隆博士のことばかり教えておられ、キリスト教教育をしているようにも思える。宗教教育でおかしいと思う。卒業生として、あまり平和教育ばかりせず、時代に沿ったような教育をしてください。

A

平和教育は人権教育とのつながりもあり、雲南市は平和教育を「核」と考え、すべての小中学校で永井隆博士について学ぼうと広がっています。ますます平和教育を充実させていきます。雲南市は「平和を」の都市宣言もしており、特定の宗教教育ということではなく、永井博士の母校として誇りに思っていたけられたらいいと考えます。(教育長)

三刀屋町中野地区

Q 2 4 5 [学校施設の避難者対策について]

学校の太陽光発電が整備されますが、学校や交流センターは災害時の第1次避難場所になっています。かといって、様式のトイレがあるか、停電時の対応ができるかどうかと言えば、施設自体が健常者向きに出来ているため難しい。太陽光発電システムが自家発電につながるようなものにすることが可能ならば、やっていただきたい。せつかく避難してこられた方が二次・三次災害の被害者にならないために願います。

A

幼稚園・小学校を今後どう活用していくか、また近くの施設と一緒にするかの話も出てきていますので、適正規模適正配置の議論が進められる中で詰めていければと思っています。(市長)

Q 2 4 6 [関連質問]

小学校の統合問題があると思うが、どうせ統合するなら太陽光発電を整備する必要がないのではないか。先に統合問題を片づけてからがいいと思うが。お金がもったいないと思う。空き校舎を毎日活用するとは思えない。

A

確かに統合の問題を先に考えた方が良いのも知れませんが、仮に統合して、幼稚園・小学校が空いたとしても、空き施設をそのまましておくわけにもいかず、それを活用して日々地域の発展に活かすことができることを考えていかないと、施設が無駄になるので、太陽光発電も活用できるような使用の仕方をみんな考えてゆきましょう。(市長)

加茂町神宝の里21、三代・下神原、大竹延野地区

Q 2 4 7 [子どもたちの挨拶について]

子供が挨拶をしない。東出雲の子供は、先に挨拶をしてくれる。子供に元気さがあっても良いのでは。

A

加茂小中学校は、挨拶が良いという伝統がある。年によって差があるかもしれないが、校長先生が朝、どこかに立って声かけを行ったり、地域の方に学校に入ってもらおうというように様々な取り組みを行っている。まだ不十分な点もあるので、学校にも指導をしている。(教育長)

加茂町立原、近松・南大西、三郷の会、宇治、宇治団地、宇治亀山団地地区

Q 2 4 8 [国宝の学習の機会について]

国宝の銅鐸、銅鏡などがあるが、国宝ということを市民が実感しているかという疑問に思います。三刀屋町の永井博士については、小学1年生から6年生までほとんどの子が知っていると思います。市として国宝に対する学習の場を設けていただきたい。

A

炎の館の計画は予算的な都合もあり、計画を中断している状況ですが、加茂町として魅力づくりを市民の皆様と一緒に進めていきたいとします。(市長)

加茂町加茂あかがわ連合会、加茂中団地地区

Q 2 4 9 [校庭の芝生化について]

校庭の緑地化が計画されているようですが、情報提供をしていただきたい。

A

学校の芝生化についてですが、鳥取方式といって地域の皆さん・保護者さんと協力していく方式です。現在、三刀屋幼稚園が第1号で始めています。雲南市としては手挙げ方式で、保護者・地域・学校との調整がついて、環境が整ったところから進めていきます。(教育長)

県内各地で行われているので、加茂町でも緑地の検討が進められるようにお願いします。(市長)

Q 2 5 0 [関連質問]

校庭の芝生化について、管理維持費が先行き不安に思います。最近の子供の体が弱いので、消石灰もまけないということもあります。除草剤をまくということもあると思いますので、その辺りも含めて検討していただきたい。一番は予算をつけていただきたいということです。

A

鳥取方式も10年、20年経っているわけではないので、どれくらいの維持費がかかるか分かりませんので、様子を見ながら進めていきます。子供たちが裸足で運動できる環境づくりのために、ご協力をお願いします。(市長)

最低限の管理は市で対応します。芝刈り機、芝、スプリンクラーは市で準備します。

子供が裸足で怪我を恐れなくて活動できる環境をつくりたいと考えておりますので、地域と保護者さんのご理解をいただいて進めていきたいとします。(教育長)

木次町新市地区

Q 2 5 1 [給食センターの民間委託について]

小学校、中学校、幼稚園、保育所などの民間委託の話は聞いているが、木次は以前から地元で作った野菜を地元で食べるということで、安心して安全な食品を提供してきた。民間に委託されるならよほど注意しないと、単に入札して安いところということではなく、地域の繋がりのある組織でお願いしたい。子どもの食生活のことなのでよく考えてほしい。

A

給食センターの民間委託について、民間委託は調理だけで、食材の調達などは行政が責任を持って今までどおり行います。木次は地元からの調達率6割で、これが低下してはならないと思っておりますし、同じように他町でも雲南市の生産農家が協力して小中学校に出してもらえるように管理していきたいと思

います。(市長)

木次町西日登地区

Q252 [山村留学について]

先般の研修会で西日登の人口が30年後には43%減少すると示された。私たちの地域自主組織は「ここにずっと住んでいける」という地域を目指してやっている。掛合小学校が統合され、当地域のPTAのアンケートでも、小学校・幼稚園の統廃合が非常に心配だという意見が多かった。小学校が廃校になると地域活力が減る要因になりはしないかと心配している。複式学級になり、ゆくゆくは他の学校と統合ということにならないよう、いろいろな環境を整えていただきたい。掛合町の小学校がなくなった地域の活力、結婚件数、人口の動向といったものを少し長らく検証してもらい、もし不都合が出ていけば市内各地域にそういった不都合が起こらないよう対策を事前に講じてほしい。三瓶で山村留学をやっておられるが、山村留学、農村留学ができるように雲南市全体で取り組んで、雲南市は山村留学の市だということで全国的に手を挙げてもらい、それぞれ子どもの少ない校区へ里親のようにして配置して運営していくようなことができないのか提言も併せてしたい。

A

幼稚園・小学校の統廃合については、適正規模適正配置の検討をして幼稚園は10名未満、小学校は15名未満の場合は統合するという基本的な考え方の元に、現在も地域ごとに説明しております。もちろん統廃合がないことが一番ですが、子どもの数の減少する状況が続くことになると、あまりに小さい幼稚園・小学校で学ぶ子どもと大人数のところで学ぶ子どもとの差が出ては良くないということで、統合するかどうかについて地元と相談しながら検討しているところです。そうならないようにももちろん市としても対策を検討していかなければなりません、地域としてもせっかく地域自主組織ができましたので、これまでも増して皆さんでも考えていただければと思います。例えば鹿児島県の「やねだん」では行政から金をもらうのをやめよう、ということで自分の地域で稼いで、人口も増えています。こうした先進事例を学び、真似し、いつか自分のものにしていくという姿勢が必要です。地域と行政がいっしょになって先進事例を吸収していく中で幼稚園対策、小学校対策も行っていきたいと思います。また雲南市全体で山村留学をというのには本当に良いことだと思います。統合した掛合小学校の旧小学校を地域の発展の中核施設として生かすということで、そこで雲南市内の交換留学や、都会の生徒の受け入れなど、山村留学の受け皿もできつつあります。空き教室を有効活用して新しい拠点づくりを図っていく中で山村留学も実現できればいいと思っています。(市長)

Q253 [西日登小学校の体育館の暗幕について]

西日登小学校から西日登振興会へ相談があり、学校の体育館の幕の修繕費について、教育委員会へお願いしても金が無いと聞いてもらえないので、約100万円を援助してほしいということであった。いくら地域のことは地域でやれと言われてもそこまでは無理ということで、相談の上雲南市・雲南市議会へ西日登振興会・西日登自治会長会の連名で要望に出ようと考えているのでよろしくお願ひしたい。色々な学校が大改築している中で100万くらいなら入札減でなんとかなるのではと思っているので来年度でいいので対応してほしい。

A

今初めてお聞きしました。教育委員会から事情をよく聞いた上で、市としての対応をお伝えしたいと思います。(市長)

木次町斐伊地区

Q254 [社会教育の指導について]

交流センターになっても、文書送付等のやり方はまったく変わっていない。行政組織の改正が必要ではないかとも言ってきたが、それも行われていない。地域自主組織、交流センターと名前が2つあって戸惑う面がある。交流センター職員は館の管理と条例に規定があるが、実際は自主組織の実働部隊となっている現状を考えれば、名前が2つあるのはいかがなものか。そのあたりの混乱がないような条例改正が来年以降必要ではないか。また特に生涯学習について、教育委員会の社会教育に対する指導が疎かになってき

た。先般の中四国公民館研究集会では木次町西日登交流センターの主事が意見発表されたが、千数百名出席の中、雲南市の交流センターからは出席者がなかった。これまでは公民館連絡協議会から経費を出し合って参加していた。問題なのはそういった生涯学習に関する市内組織がまったく手が付けられていない。また当交流センターでは体育館、グラウンドの管理もしているが、施設全体で1日平均6団体、140名が利用している。人員配置について配慮してもらわないと自主組織の活動に支障が出てくるのでその点もお願いしたい。

A

文書の宛名については、まだスタートしたばかりで周知が図られていないのではと思いますが、これから徐々に分かってもらえるのではないかと思います。市の組織改正のことについては、地域づくり担当職員を配置してここが窓口として情報伝達をしていますので、そこが徹底していないということであれば、しっかり徹底するよう指導していきます。また地域自主組織の会長宛てとなるべき内部文書が交流センター長宛になっているということはあってはなりませんのでこちらも指導していきたいと思います。地域自主組織と交流センターは2つ併存しているわけではなく、交流センターは地域自主組織の活動拠点として公民館に変わるものです。地域自主組織会長と交流センター長を兼ねることはありうることで、条例改正の必要はないと思っています。研究集会に雲南市からの参加がなかった件については、実態をよく調査してそういうことがないようにしたいと思います。地域支援コーディネーターや社会教育コーディネーターなど新たに職員を配置しており社会教育についてはパワーアップさせつつ現在に至っていると思っています。人員配置については、複合施設管理として1名ついておられるはずですので、連携を取っていただき管理していただければと思います。(市長)

木次町下熊谷地区

Q255 [教育の充実について]

20代の若者の7～8割が将来に夢や希望がない。教育がいかにか大事か。子どもの学力が落ちている。雲南市ではせめて教育費を潤沢に投入してほしい。

A

格差の問題、教育の問題、介護保険料の問題、若者に夢がない、教育のつけがきているという中で雲南市としてどうするかということで、6つの施策を立ち上げ、教育の向上、雲南市ならではの教育施策を推進しております。学校家庭に任せきりにするのではなく、学校、家庭、行政、地域一体となったものを目指しており、これがいずれ良い結果に結びつくものと思っています。(市長)

木次町温泉地区

Q256 [雲南市立学校適正規模適正配置実施計画について]

幼稚園・小学校の統合について、今進んでいるのは前期に幼稚園を地元との協議が整えば統合し、小学校については前期で検討・協議をし、後期の31年までに統合するというのがすでに基本計画として出ているが、温泉についてはいろいろと経緯があっており、ダム関係で人口が流出したことで生徒数流出しているが、こういうことがどういう形で勘案されていたのか。今後の実施計画でのスケジュールはどのような形で考えているのか。

A

幼稚園・小学校の統合について、昨年も同様の質問をいただき、市長から温泉幼稚園については2人までいけば継続と申し上げました。適正規模適正配置検討委員会で検討していただいております。基本計画を策定しております。幼稚園は10名未満は今後5年間で統合、小学校は15名以下は5年以内に統合しているということです。これはあくまでも教育的観点から検討したものであり、今後地域の皆様と十分に協議していきたいと思っています。地域自主組織にも窓口を持っていただくようお願いしており、市の考え等を説明していき、結論を急ぐのではなく十分な議論をさせていただきたいと思っています。(教育委員会)

Q257 [山村留学について]

学校について、山村留学で人を呼ぶことが検討されないものか。

A

山村留学について、目的としては児童・生徒の減少に歯止めをかけること、地域活性化、交流人口の拡大、不登校への対応などが挙げられます。大田市の三瓶が盛んです。掛合小学校の統合により波多小学校を山村留学に利用しております。課題としては受け入れ側の体制がどうか、始めてどれだけ続くのか、子どもの見込みなど継続的なこと等あって実施されなかったということがあります。こうした協議の場に情報提供や、資料提供していきたいと考えております。(教育長)

大東町塩田地区

Q258 [スクールバスの購入について]

来年、小学校が統合する。バスの購入について、これからバスの使用頻度が高くなれば、更新の話も出てくる。旧大東町では補助事業等でスクールバスを購入した。住民使用としては便利が良くない。今後のスクールバス購入の計画はあるのか。助成金を受けて購入されるのか、市自体の金で運営されるのか。

A

来年度の統合後の通学については、保護者の皆さんとも協議させていただいている。今現在は市民バスを基本に考えている。9月24日、保護者の皆さんと協議する中で、市民バスでどうしても対応出来ない部分もあるでしょう。そういった場合には、市はタクシーを配置して、対応する。今後バスの更新については、今のところは具体的な計画はない。しかし、老朽化しているので、状態を見ながら、検討はしていかなければならないと考えている。とりあえず、タクシーで対応したい。(教育委員会)

バスの運行については、地域振興課が担当している。大東はスクールバスの兼用で運行している。ダイヤを変えていく必要があるので、今後、どのような時間帯で運行していったら良いのか、不便がない様に検討してゆきたい。バスも30～50万キロメートル距離を走ったバスが多くなった。今後、更新する必要もあります。更新するには、経費がかかるので、運行する人の数に応じたバスの大きさというものを検討してゆかねばならない。いずれにしても兼用で運行することになる。子供たちの通学に支障がないようなダイヤを検討し、進めてゆく。(政策企画部)

大東町大東地区

Q259 [大東図書館の建設について]

大東町の図書館は、今年の5月の連休明けから「おおぎ」の社協のあとへ移転された。知っている限りでは、市から地域福祉委員会に対してまず提案があった。その場では、多くの皆さんからは「おおぎ」の中には、たくさんの福祉施設が入っている。これから福祉を考えた時に、「おおぎ」の中には社協は居てもらって大東町の福祉の中心としていつまでもあってほしいとの意見があり、反対があった。あらためて、市の方から提案をしておいて下さいということを行ったはずだ。しかし、残念ながらその後なりふりかまわずと言っていいほど怒りたいが、そういう形で5月の連休明けに移転された。その時に聞いているのは、仮設であると、いずれ大東町の図書館について建設すると聞いている。あれから半年以上経った、建設に向けて現在どういう取組みがされているのか、どの辺まで進捗がいて、最終的にはいつ頃図書館が完成するのか。

A

図書館についてはこの後、連合自治会長から関連して質問されるので、後ほど回答する。(大東総合センター)

[追加意見]

図書館の件については、移転したため沢山の利用者があるということは、非常に立地的にいい場所かもしれない。ただ、あくまで「おおぎ」だから早く3年も4年もかけないで、「おおぎ」周辺に新しい是非住民と一緒に作れるような図書館を作ってほしい。住民で図書館を立ち上げた町づくりをされた市がある、図書館を作って住民と一緒にやって町づくりに成功した町もある。是非そういう図書館を作ってほしい。

Q260 [大東図書館の新築について]

大東図書館の移転は住民の周知や意向調査がないまま進められたが、新しい図書館は「いつ」「どこへ」建設されるのか住民参加の建設を希望するが、大いに関心のある課題である。

A

大東図書館については、新庄飯田線の工事がスタートした時に図書館の移転先は旧大東中学校へという計画だったが、工事が早まったため旧大東中学校校舎の取壊しということもあり、1日も早い大東図書館のオープンを考えて。なかなか、適切な場所が無くやむなく大東地域福祉センター内に移転しオープンした。この間、皆様方には十分な説明が出来なかったことについてはお詫びをしたいと思う。建設計画は、大木原周辺の整備が完了した時点で再度検討していきたいと自主組織・自治会の皆様にお伝えをしているので、現時点ではどの場所というお答えをすることはできない。また、現状分析とのことだが、オープン以来利用者が14,600人、平均で1日125人、これまでが1日60人で今の場所に移転したことにより、バスでの利用や中学・高校生の利用が増えている。また、福祉施設の隣り合わせということで定期的に利用される方もおられ気軽にこられるとの相乗効果がある。移転により、大東、加茂、木次の3館をネットワーク化してどこからでも書籍の貸出、返却が可能になり図書館の利用者も増えている。(教育長)

大東町幡屋地区

Q261 [西小学校の案内看板について]

仁和寺の三叉路の所の鉄柱が倒れて、西小に入る案内看板がなくなった。お客さんが西小に入る道がわからない、駐在所へ行かれると留守でわからない、そこでうちの家に来て西小はどこかと尋ねられる。教育委員会でよく見て、電柱の所へ立ててほしい。

A

西小学校の入り口看板は幡屋側も春殖側も学校までいかないと看板がないのももう少し手前からわかるように、場所も相談させていただきながらつけていきたい。

[追加意見]

電柱の所に西小入り口の看板をもう少しわかり易く、大きな看板をつけて欲しい。

大東町海潮地区

Q262 [海潮幼稚園・海潮中学校間の連絡橋について]

昨年発言した内容と一緒に、完成していればこの質問はしなかった。海潮幼稚園と海潮中学校は至近距離に在りながら川を挟んでおり、緊急時・救急時において中学校との連絡が500mも離れた状態で対応ができにくい。また駐車場が幼稚園には少なく、参観日等には園周辺の農道への駐車となる実態で、周辺農家から苦情の声があっている。プール使用に於いては、市道に出ていかねばならないが車の通行も多く大変に危険である。

この要望は昨年もお願ひしており、昨年の議事録を見ればわかるが市長からも前向きに検討すると回答をもらっている。この回答に昨年は地区民一同ホッとしたところだったが、いまだに方向が出ていないので再度また海潮幼稚園と海潮中学校の間に、緊急時避難路を兼ねた歩道橋の早期設置を要望する。

A

歩道橋について、教育委員会と建設部から回答する。ご指摘のとおり対岸までの歩道橋があれば避難経路として、また学校施設の有効利用など効果的な連携が図られると考える。市としても必要であると認識し、協議を重ねている。こうした中で本河川は砂防指定河川であり様々な条件や制約があることが分かり、現在実施ができていないが、市長からも前向きに検討するという回答もしているので、今しばらくお待ちいただきたい。(教育長)

建設部として状況は理解するが、現場は橋上部分がかかなりあり左岸右岸の高低差もある。昨年松江木次線の北村中湯石間の歩道橋建設工事を行ったが同じような状況で五千万円かかった。砂防河川でもあり制約もあるが、教育長が検討するというので回答したので今しばらくお時間をいただきたい。(建設部)

私からも一言申し上げる。できるだけ早くと考えるが、様々な制約があったため一年間検討を繰り返し

てきた。いよいよ方向性、結論を出すべきだと考えるので、ご協力をお願いしたい。(市長)

Q263 [関連質問]

幼稚園の歩道橋について昨年の段階で前向きに検討する、また実施に向けて相談するとまで回答をもらったが、相談すらない。橋の土台となるはずと聞いていた鉄骨の材料は他の個所に使用されてなくなってしまったと聞いた。子供達の緊急避難、通常時の駐車場不足はもとより、夏の炎天下に子供達が交通量の多い危険な道路を大回りする姿は見るに堪えない。昨年の説明では四千万も五千万もかかるはずではなかったではないか。

A

おっしゃるとおり去年の時点で早急に対応しなくてはならないと回答したが、検討を進める中で様々な制約があることが判明し、手つかずのまま現在に至っている状況である。何とかしなければならない気もちには変わりはないので、どうかご理解いただきたい。(市長)